

薬害C型肝炎被害者の立場から

フィブリノゲン製剤



フィブリノゲン製剤について

- 旧ミドリ十字現在田辺三菱製薬
- 血液凝固因子製剤
- 原料は鮮血（その大半は売血）
- 最初是非加熱製剤、肝炎感染発生後
- 加熱製剤に変更、しかしウイルスは存在



元FDAの バーカー証人

裁判所前集会



五地裁での訴訟

- 原告意見陳述
- 弁護士意見陳述
- 被告意見陳述
- 証人尋問
- 本人尋問

大阪地裁判決

(日刊)

2006年(平成18年) 6月21日 水曜日

国、製薬2社に責任

薬害C型肝炎

危険な製剤放置

大阪地裁 判決 5人への賠償命令

出陣時に止血剤として投与された血液製剤「ファイリンゲン」をC型肝炎に感染したとして、患者らが国と製薬会社に賠償を求めた薬害C型肝炎集団訴訟の初めての判決が21日、大阪地裁であった。中本敏嗣裁判長は、原告1人中入

ンを投与された。20代の男性原告1人は85年4月、新軍出血のため、第9国製剤プリスマ(CV)感の因果関係は、血液製剤に治療薬が危険性を上回る「有用性」があったか(国)、HCCの権限行使すべき法的責任があったか(製薬)と争われた。

訴訟で、原告側は「C型肝炎はファイリンゲンに有用性がなかったのは明らかで、製薬・販売を承認し、長年放置した国には賠償責任がある」と主張。国側は「ファイリンゲンなどは有用性が認められており、承認・審査は国の対応問題はなかった」と全面的に責任を否定していた。(前出警夫)

について国と製薬会社の法的責任を認めて賠償を命じ、危険な血液製剤を放置した国の不作を厳しく批判した。

(社会面に関連記事)

判決を受けたのは、大阪訴訟の原告31人のうち、今年2月に先行結審した近畿、中国、四国の原告18人。国と三菱ウェルファアール(旧ミドリ十字)、子会社「ベネシス」の製薬会社に対し、慢性肝炎の10人が各6600万円、発症してない感染者の原告3人が各3300万円の総額7億5900万円の賠償を求めた。



訴訟をこじやせ、40代、50代の女性原告1人は81年8月、88年6月、出産時の大量出血を止血剤としてファイリンゲ

福岡地裁判決



訴訟被害

学生

訴訟を支える

立ち上げ集会



政治決断望み薄れ

薬害肝炎訴訟原告ら

首相と面会できぎず

遠のく「一律救済」に落胆

薬害肝炎訴訟の原告・求めようと官邸を訪れ、弁護団代表ら六人が十日、福田康夫首相の代わり、午後、被害者全員の一律対応した大野松茂官房副長官と面会した。

屋側によると、福田「束できない」と答え、困窮と千二百までに会え、難との見通しを示した。和議協議で大阪高裁、大野副長官は約は、国と製薬企業の責任を請うていた。

屋側は血液製剤の投与時期などで補償に差が出ることは受け入れられ、今月六日に首相との面談を文書で要請していた。

粉砕決算の未、破産しは詐欺行た佐賀商工共済協同組合の賠償責任を認め、組合を認識、雄元参院議員ら旧経団連は、三人と佐賀県に約十億三、千五百万円の損害賠償を、使で、詐求めた訴訟の控訴審第一、不法行為、高裁が私、裁判長であ、五億五千、陳内氏側はあらため、した。

「これ以上何を…」無念の涙

「今まで頑張ってきた、いいんだろ」。国の主権が、これ以上何をすれば、張に沿った和解骨子案が

検討されていることに危な表情。機感を募らせ、福田康夫首相による政治決断を求め、官邸を訪れた薬害肝炎訴訟の原告。今回で三度目の面会申し入れたが、

「このようことを説明。」「このようた。これ以上何をすればいいのかわからない。何の役にも立てず、悔しい」と話した。

この日、旧経団連と同県に連帯、氏側は「



一律救済を求めた団結行動について、涙をこらえながら報告する原告の福田衣里子さん（左から2人目）ら。10日、東京・永田町の星陵会館

また聞き入れられず、首相に対する怒りと落胆の声が上がった。十日午後、首相に代わって大野松茂官房副長官との約五十分間の面会を終えた原告代表らは、官邸近くで報告集めに臨んだ。全国原告団の山口美智子代表（五）ら実名を公表している原告十一人は、弁護士二人に付き添われ壇上に並んで座ったが、目に涙をため、沈痛

な表情。山口代表は集まった原告や支持者を前に、大野官房副長官から首相との面会は難しいと言われたことを説明。「このようた。これ以上何をすればいいのかわからない。何の役にも立てず、悔しい」と話した。この日の面会に同席した弁護士から「福田首相を弁護士から「福田首相を労働相から（解決に向けたいすばらしい言葉を聞きた。首相がなんとか決断できないと、原告と会うための日程を入れることだ。」「これと今日の今日、大阪原告団の西川洋子さんは「時間が足りないのは私たちが救われるのか」と怒りをあらわにした。

環境省の絶滅危惧種「アカウミガメ」の保護活動法人（NPO）法人「ウミガメの会」が、鹿児島県屋久島のNDP（自然保護地域）で、ウミガメの産卵地を調査している。ウミガメの産卵地を調査している。ウミガメの産卵地を調査している。ウミガメの産卵地を調査している。

厚生労働省前での抗議行動



厚生労働省前での抗議行動



国会議員に陳情

- 各党肝炎対策プロジェクトチームにヒアリング
- 国会議員ローラー
- 全国地方議員に陳情
- 署名活動

国との和解

国は肝炎感染の責任と

非を認める

薬害肝炎和解へ合意書

原告・政府 再発防止協議へ

薬害C型肝炎訴訟の全国原告団と政府は15日、和解条件を盛り込んだ基本合意書を締結した。国が責任を認めて謝罪し、11日に成立した薬害肝炎被害者の救済法に基づいて症状に応じた一律の給付金（4千万～1200万円）を支払う内容。薬害の再発防止も約束した。同訴訟では全国5カ所の地裁・高裁で200人の原告が争っているが、2月上旬以降、国との間で和解が順次成立していく見通しだ。

協議する場の設定、なども盛り込んだ。その後、原告団約110人は福田首相と首相官邸で面会。福田首相は薬害を招いた国側の責任について、「行政の代表として、お詫びを申し上げたい」と改めて謝罪。

一方、血液製剤の製造販売元である田辺三菱製薬と厚生労働省が署名した。外添氏が二度と薬害を起さない体制づくりに全力を挙げると約束した。原告団は今後、責任を認めて謝罪し、厚労省は今後の提訴者について、「カルテがない場合も一概に否定せず、投与を信じるに足る証拠が示されれば争わない」としている。

また、合意書では、国は血液製剤の投与を受けた人の確認の促進や投与患者への検査の呼びかけを約束。肝炎の医療提供体制の整備のほか、第三者機関による薬害の検査、再発防止策について原告・弁護団と継続的に



- 【基本合意書の骨子】
- 責任と謝罪
 - ・国は甚大な被害が生じ、その被害の拡大を防止し得なかった責任を認め、お詫びする
 - ・国は事件の反省を踏まえ、薬害の再発防止に最大の努力を行う
- 投与事実、因果関係などの認定
 - ・投与事実は、医療記録及び同等の証明力を有する証拠に基づき証明する
 - ・投与事実、因果関係または症状に争いがある場合は、裁判所が判断する
- 国
 - ・恒久対策
 - ・血液製剤の投与を受けた者の確認の促進、検査の呼びかけに努める
 - ・第三者機関で事件を証拠する

また、合意書では、国は血液製剤の投与を受けた人の確認の促進や投与患者への検査の呼びかけを約束。肝炎の医療提供体制の整備のほか、第三者機関による薬害の検査、再発防止策について原告・弁護団と継続的に

福田首相との面談に臨む全国原告団の山口美智子代表（右から2人目）。実名公表していない他の原告は約100人も同じ場所で見守った15日午後5時すぎ、首相官邸で、高波淳撮影

福田首相・謝罪



薬害私たちに最後に

「やっと頂上に登ることができた」。薬害C型肝炎訴訟 済まない患者の存在、薬害を繰り返してき産事行政で、原告側と国が和解に向けた集合意書に調印した十五日、九州など各地から上京した原告・弁護団約百十人は福田康夫首相と面会、初めて握手交わした。初提訴から五年余、首相は薬害根絶を誓い、原告らは笑顔を見せた。【救】



薬害C型肝炎原告団の山美智子代表（右から3人目）と面会、薬害根絶を誓った福田首相（右から2人目）。その「誓」を原告らは注視している。15日午後5時すぎ、首相官邸

いちいち刻んで

薬害肝炎・和解合意

「やっと、官邸におたちは大臣が孤軍奮闘し、金と政治と力の問題にいいたいです」。十てきたことを知って、集めた。「汚弊」五日後五時すぎ、首相。その声をかけた薬を宣言する浜野の言葉。官邸地下の大ホール。福 薬害訴訟全国原告団に「重くて重い原動力の訴えの意味をわからぬ本物が、誓は本心に根田康夫首相は大笑して話表の山口美智子さん（50）と喜び、後に「裏切」だった（山口さん）原絶へ向かっか。

誓いの握手 苦闘5年、やいふ

めかけた原告らの席に。福岡市は「やっと心られたと涙を流した。告たち。決意の見通し 政治の「力」を思い知礼し、そう切り出した。から喜んで握手できま 原告団は、あきらめながないのに、自分らが救ったから、山口さん「皆さまに大変迷惑を」と柔らかな表情を見かけた。『いま、随にいます。した。肝病患者の救をあえを使う。』

たテレビ局関係者に三りではない。被害を立証 薬害訴訟で浮き彫りに行政を引張ってほ 政治に期待し、翻書 ユース番組に出したでできず救済されない患 者、血液製剤以外の原因りになった薬害行政の欠

一人と握手した。 山口さんが初めて言 弁護士仲介があったで感染し、肝がんなど重 症とは何か。約三百五十

これに先立つ厚生労働 邸に解決を申し入れの わけてはない。「弁護士い症状に苦しむ人も多 万人の肝患者の救済は

省議事での基本合意書 は昨年三月末、政府高官 先生たちは伴者、私た

印式、外添要一厚労相は 前向きな言葉を述べた。ち活動家じゃないが、「これで前向きして の闘い振り返りながら

深々と頭を下げた。「私たが、水田の関心は年 当事者が動かなければ何 はならない。患者生徒の 残され課題を考える。

も変わらなから」 恒久対策に力してほし 世論が大きく反応した い。九州屋の出田妙 さんと、熊本市には 厚労省が地下倉庫に放置 首相に迫った。福田屋 していた感害リストの 「きん」長崎市には 問題が表面化、ワイドシ 「薬害きき起した人 ヲ取り上げるように 々が闇に隠れている。真 なり、奔走に参入され 相説明を後やらなけれ たように事態は動く。基 はならないと訴えた。

本合意調印は、首相が政 首相は原告の面会を 府対応に切りをつけ、 終えた十五夜、「行政 自民党総裁として議員立 の立場にあふ人たちが思 法を指示してから、わす 者、国民の立場を無視し て判断するまなことは

あつてはない」と強

以後の原告団活動

- 薬害C型肝炎事件の検証および再発防止の
為の委員会
- 恒久対策(大臣面談)
- 肝炎対策基本法の成立